第 58 号 161111

履正社学園豊中中学校・履正社高等学校 図書館

図書館だより

今週と来週、中学・高校ともに、第３・４回の人権学習が行われています。
自分を大切にし、そして周りの人も大事にするような大人になってほしいと願っています。
人権を考えるときの参考となるような本を紹介します。

新収図書・蔵書紹介

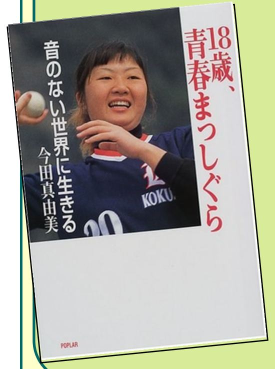
多様な人たちが共に暮らす社会。
他者への想像力を持つことが、 生きやすい社会に繋がっていくと思います。

『まだ17歳だけど、人生って面白いと思う 』

（POPULAR） 岩淵 大起 著

岩渕大起くんは、車いす400メートル競技全国大会で銀メダルを受賞したこともあります。ハンディをものともせず、興味を持ったことに果敢にチャレンジして壁を乗り越えていく、彼のポジティブな姿勢に胸を打たれます。

『18歳、青春まっしぐら ―音のない世界に生きる 』



（POPULAR） 今田 真由美 著

「悩むことなんて必要ない! いい球がきたら、そう、思いっきり振り切るだけ!」。生まれつき耳が聞こえない、エネルギッシュな野球少女の18年です。

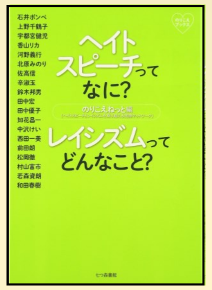
『生きてます、15歳。 』

（POPULAR） 井上 美由紀 著

美由紀さんが生まれる前に交通事故で亡くなった父は、「おなかの子を大事にするんだよ」と母に言い残していました。500gの超未熟児で生まれ、視力を失いながらも生きぬき、全国盲目弁論大会で優勝。母と娘の涙と笑いの15年。

『ヘイトスピーチってなに? レイシズムってどんなこと? 』

（七つ森書館） のりこえネット 編



ヘイトスピーチが傷つけるものは何なのか。その本質に、のりこえねっと（ヘイトスピーチとレイシズムを乗り越える国際ネットワーク）が迫ります。

『変えてゆく勇気 ―「性同一性障害」の私から』

（岩波新書） 上川 あや 著

本当に困っている人こそ、声を上げることが難しい。 でも、行政や周囲の人と手をとりあうことを求め、はたらきかけることの勇気が語られています。

『在日 』

（集英社文庫） 姜 尚中 著

「鉄男」から本名の「尚中」へ。
朝鮮戦争のさなか、「在日二世」として生まれた著者。その生い立ち、心の遍歴を赤裸々に綴った自伝です。

図書館利用状況（延べ人数）

	10月
中学生	449
高校生	1202
合計	1635

★ 図書館の本は大事にあつかいましょう。

★ みんなで使う机・マットやいすも大切に使って下さいね。

『世界がもし100人の村だったら 』

（マガジンハウス） 池田 香代子 著

ミリオンセラーになったネットロア（インターネットによる民話）です。絵本形式でとても読みやすい。「そういう人がいる」ということに気づかされ、考えさせられます。

先輩の声（第４弾）

図書館を利用して頑張った先輩たちからのメッセージです。

山野善樹 さん（大阪教育大学教育学部 専攻小学校コース 進学） 6カ年特進コース

図書館は、昼休みや進学講座が早く終わった日や定期テスト前に、頻繁に利用しました。それは、その日に出た宿題を、その日のうちに学校で終わらせるためです。また、それが早くできれば、暗記物にも取り組みました。だから、自宅では余裕をもって、勉強することができました。

図書館の良い点は、静かな環境が整っているのはもちろんですが、他の人の勉強する姿に触発させられることです。特に、1･2年生の頃、3年生の先輩方の熱心に勉強する姿が、本当に参考になりました。このような環境が整った図書館で勉強してきたことが、合格につながったのだと思います。

最後になりますが、自分の夢を実現するために勉強するなら、教室での勉強も大事ですが、効率が良い図書館での勉強も、みなさんにお勧めします。休み時間にも努力することによって、必ず良い結果を掴み取ることができると強く思います。後輩のみなさん、勉強で辛くなる時期もあると思いますが、夢を胸に抱きしめて頑張って下さい。

図書館にはたくさんの蔵書や赤本がそろっています。まだ利用したことのない皆さん、環境の整った図書館のキャレル（仕切り付自習机）を活用して下さい！

生徒の皆さんの読後感想

『自己組織化とは何か―生物の形やリズムが生まれる原理を探る』

（ブルーバックス） 都甲 潔 ，林 健司 ，江崎 秀 著

エントロピー増大の法則のある中で、物質はそれに逆らって集まろうとする。
難しいけれど、おもしろい話でした。（高1−7 男子）

『バッテリー』

（教育画劇） あさのあつこ 著

作者のあさのあつこさんが好きで、シリーズを楽しみに読んでいます。文庫も読みましたが、単行本の方が読みやすかったです。 （高1−6 女子）

『博士の愛した数式』

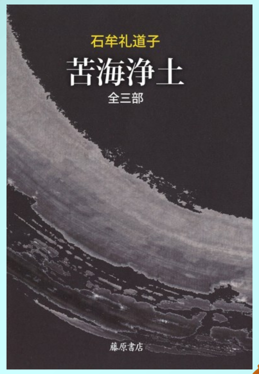
（新潮文庫） 小川 洋子 著

何回も読み返していますが、そのたびに新たな伏線に気づきます。
数時間しか記憶の残らない博士の、記憶の保たれる時間がどんどん短くなっていく姿に切なくなります。 （中1−A 女子）

受付担当の方より

『苦界浄土 全三部』

（ 藤原書店）石牟礼 道子 著



放課後の受付をお願いしている福田さんより、新収図書である本書の推薦がありました。水俣病を題材にした小説ですが、長い読書経験の中で、最も印象深いものだったそうです。特に第1部が秀逸とのこと。是非、手に取ってみて下さい。